



Cooking + α 毎日のかんたんレシピ

「酒場→シメのラーメン」生活よ、サラバ！
健康食生活のトビラを開いてくれた一冊です。

オトコ独身、どうも自炊をするとお手軽に「うどん+白ごはん」といった感じで炭水化物＆炭水化物に陥ってしまうのがセオリーというもの。ヘルシーな食生活とはかけ離れ、アチャードである。

そこで、このα-STATIONのαラジオブック第4弾となる「Cooking + α 毎日のかんたんレシピ」。野菜ソムリエであり、番組「SUNNYSIDE BALCONY」でお馴染みのDJ・慶元まさ美さんが紹介するレシピは、料理のポイントやコツも解りやすくタイトル通

り本当に「かんたん」。でもってレシピ毎に「うう～、はあ～、なるほどお～」と思わず唸ってしまうありがた～いエッセイ付き。

で、実際に2品挑戦してみました。「変わり酢豚」と「鯛のサルサヴェルデ」。いや、脚色ナシでちょっとしたシェフ気分が楽しい&ハマります。だって年始から「会社帰りの一杯」が減って、「会社帰りのフレスコ」が増えましたから。

(坂東寛士／本誌)

■Cooking + α 毎日のかんたんレシピ ■著／慶元まさ美 ■ISBN978-4-8381-9959-4
■光村書店 1575円（税込） ■問い合わせ エフエム京都 文化事業部（075-344-8894）



chori | 帰り道のはて

帰り道のはて／chori

RELEASE

発売中

アナタの耳にはどう響くか？
ポエトリー・リーディングの魔力。

中学時代から詩人として活動を始め、関西の音楽&アートの現場にポエトリー・リーディングを持ち込んだ詩人・choriが昨年末に約2年ぶりとなるアルバム「帰り道のはて」をリリース。詩人として自らのポジションを宣言するよりも聞こえる#5「ハタラケド」、京都の街を遊泳していればよりリアルに響いてくる#8「聴きたくないような歌だけがやさしい」など、五線譜に束縛されることのない音感や質感、ポエトリー・リーディングならではの魅力が詰まった一枚。

また今年から、身近に、ごくあたりまえに詩やことばのある生活を提案するプロジェクト「ふるて」もスタート。定例イベントの開催やプロデュースやサポートなどにも本格的に活動の場を広げる。直近のイベントは2月3日（日）「WORDS MEETING KYOTO@Tranq Room」、「VOX詩人大学@VOXhall」など。詳細は下記URLにて。

(坂東寛士／本誌)

■帰り道のはて／chori ■Voice Torch Label ■2200円（税込）VLT-005 ■<http://chori.cc/>

思えば新車カタログに、「癒し効果」が期待できるオプションが格段に増えている。不目調の内装は突然米子や富山の高岡まで車をとばし、着いたら即帰るという、無理矢理な気分転換をしたこともあるという。しかし、クルマ本来の機能とはかけ離れた無駄なものが多いため、自分が「癒え

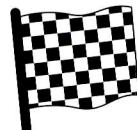
シガーソケットに差し込み、電源を入れると香りがする、車内用のアロマテラピーブックスが予想外に売れている。気分に応じて香りを変えて気分転換や癒し効果を楽しむことができるのがヒットの要因だろう。最近よくクルマを「癒し空間」として使う」という話をよく聞く。例えば子供がグズつて泣き止まない時に、寝かせるためにドライブする「ビジネスマンが大好き」なCDを積んで高速道路をクルージングしてストレスを発散する「ミヨージシャンがクルマの中に音機器を持ち込んで作曲する」という具合である。本誌の編集長は突然米子や富山の高岡まで車をとばし、着いたら即帰るという、無理矢理な気分転換をしたこともあるという。



「クルマとヒーリングの関係」

Kyoto Car-Moratorium

～京都人のクルマ知らず～



10th Lap to go

中島 崇
なかじまとかじ
1968年生。自称「クルマのソムリエ」。創業昭和38年、北には紫野の自動車屋（株）中島を探すスペシャリスト。かつて自動車オーナーの取引で2000万円をドボに捨て、大失敗の連続から学んだ「ノウハウをまとめた無料小冊子『その車に手を出すな！』」も好評。中島流車道家（？）を目指す京都人。



© QUATRE ILLUSTRATION